

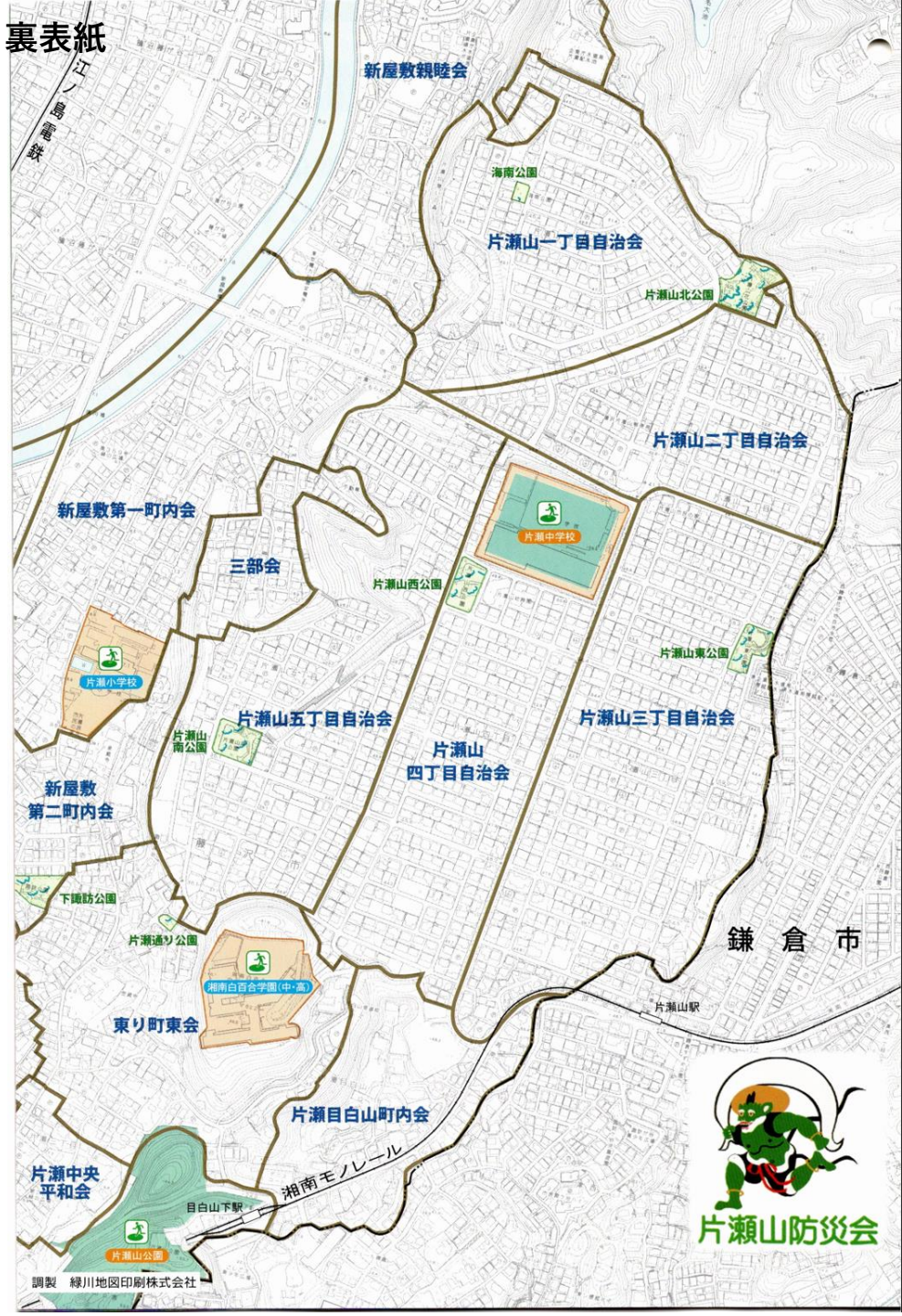
片瀬山防災基本心得

2008



“その時”に備えて「親族、友人、近隣など相互安否確認を必要とする連絡先」を各自記入しておいて下さい

家族の連絡先	我が家の避難場所
	一時避難場所
	広域避難場所



片瀬山防災会

片瀬山は震度7地区（関東大震災並み） その恐ろしさを認識しておこう

“その時”

ご近所もお役所も手一杯！

電話・携帯は通じません！

消防車も救急車も直ぐには来ません！

大地震ではこうなります・・・

あなたはどうしますか？

自ら防ぐものが自らを助けます

寺田寅彦の警句：天災は忘れたころに来る（非日常）

不意の地震に不断の用意（備え）

正当に怖がることは難しい（決断）

！この警句を肝に銘じて備えることが大切です

日本の震災

● 関東大震災

発 生 年 月 日	大正12年(1923) 9月1日 (大震災記念塔記載より)	
地 震 規 模	マグニチュード7.9 (震度7クラス)	
被 害 者 数	死 者	99,311人
	負 傷 者	103,733人
	行方不明	43,476人
被 害 家 屋	全 壊	128,266戸
	半 壊	26,233戸
	焼 失	447,128戸

● 阪神・淡路大震災

発 生 年 月 日	平成7年(1995) 1月17日	
地 震 規 模	計測震度7.3	
被 害 者 数	死 者	6,436人
	負 傷 者	40,092人
被 害 家 屋	全 壊	104,004戸
	半 壊	136,952戸

● 新潟県中越地震

発 生 年 月 日	平成16年(2004) 10月23日	
地 震 規 模	計測震度6.8	
被 害 者 数	死 者	46人
	負 傷 者	4,793人
被 害 家 屋	全 壊	821戸
	半 壊	103,531戸
	焼 失	7,800戸

片瀬山では

⚠️ 震度7クラスの地震がきたら？

(藤沢市防災基本計画概要 平成15年3月)

● 藤沢市全域

罹災者	62,000人
木造家屋 大中破損	32,000戸
家屋焼失	7,800戸
都市ガス・ 水道支障率	100%

● 地震影響略図



⚠️ 片瀬山延焼の危険度は高い

(藤沢市防災基本計画概要)

家屋間の間隔がある地区ではありますが、風向きや風速により注意を要します。火災50件が見込まれ、その主因は

- ① 石油ストーブ他火気器具や家電破損による出火
- ② 電線切断による漏電出火

⚠️ 片瀬山は震度7地区、何故でしょう？

阪神淡路大震災のような大地震は活断層の活動によるものであり、断層直上のみならず相当はなれた地域で、幅数キロに亘り大被害を及ぼしています。全国有数の活断層が多い南関東地域、とりわけ神奈川県は20本も走っており、そのうち10本がA級（1000年で1m以上のずれ）、残りがB、C級という数と密度両面で多い地域です。

藤沢市は泥岩など、断層活動を吸収しないで直接地上構造物に被害を与える危険性が高い地下構造といわれております。また、1854年の東海地震（M8.4）、1855年の東京湾北部地震（M6.9）、1923年の小田原地震（関東大震災M7.9）からの周期を考えると、そろそろやってくる可能性があるといわれており、十分な備えが必要です。

以上のような活断層状況の研究により、南関東一帯はマグニチュード8クラス地震の可能性が高いことがわかり、地形と地質構造から片瀬山を震度7地区と指定する根拠になっています。

(藤沢市地震影響図、神奈川県地域活断層調査委員会などの資料より)

⚠️ 以上、片瀬山の特徴を理解しておきましょう

⚠️ “震度7クラス”で起こることは

● 人間の心理

経験したことのない揺れに驚き
自分の意志で行動できない
完全パニック状態となる



● 屋内

家具が飛び跳ね、転倒する
窓ガラスや置物が飛び散る



● 屋外

家屋は倒壊、外壁・ブロック壁も
倒壊、電線たれ下がり・火災発生



● ライフライン

電気・ガス・水道が停止



● 地盤・斜面

道路陥没・地割れ・地すべり・
山崩れ



⚠️ そして・・・

日本の地震災害三大要因は？

- ① 家屋倒壊の下敷き
- ② 家具転倒やガラスの破片による怪我や逃げ遅れ
- ③ 火元を消さないミスによる火災（二次災害）

- 阪神大震災での下敷き被災者数16万人、そして全死者数のうち八割以上がその圧死と窒息死であり、家屋倒壊を事前に防ぐ事が大切です。
- 怪我をしないことは身を守るための必要な条件であり、ガラス破片に備えて、スリッパなどの履物を常に足元に用意してください。



安心と安全の100%保証はありませんが、
! 具体的な予防策と日頃の心構えは間違いなく被害を少なくします。

小さな備えが大きな減災をもたらす、それが次ページ以降の内容です。

自らを守ることが第一です

“その時”には、とっさの判断と決断を迫られます。まず自らを守る考えを日ごろから持つておくことが大切です。下記の例は日本地震学会が挙げている項目の抜粋です。

- ① 最初のゆれで大地震か否かを判断する
- ② 大地震と感じ、数秒で飛びだせるとの判断であれば屋外へ。但し慌てて飛び出すのも危険であり、自ら状況判断を要する。いずれにせよ出口を確保しておくことが大事です
- ③ 二階の方がかえって安全です
- ④ 家屋の構造上堅固な場所へ移動する
(例えばトイレなど)
- ⑤ 屋外では屋根瓦、壁の崩落の危険から遠ざかること
- ⑥ 海岸では津波を警戒し、山間部では崖崩れを注意する



- ⑦ 最初の1分が過ぎれば、とりあえず大きな危険は脱したと考えられる。先ず火災防止、次に人命救助です
- ⑧ 倒壊家屋からの出火は地震直後にも起こり、12時間後にも起こるので油断しないこと
- ⑨ 大地震では断水を覚悟し、直ちに貯水をする



(常時の貯水を忘れずに！)

- ⑩ 余震でも家屋倒壊や火災の恐れがあるのであなどらないこと

“その時” 自らの判断で行動することが大事です

! この冊子はそのための心得であり予備知識です

平時の転ばぬ先の杖

火災発生

- 家屋内消火器の常備配置
- 何処に水を溜めるか決めておく
- 街頭消火器の場所を確認

具体的予防策

家屋の補強

- 昭和56年5月以前に建てられた木造住宅は耐震診断を受ける
- 必要な保守を行う



家具転倒・ガラス飛散

- 背の高い家具には必ず転倒防止金具を
- 置物は低位置に
- 窓ガラスには飛散防止フィルムを
- 日ごろからスリッパ・履物・手袋を身近に用意する



他人事ではない
被害を最小限にするの
は自分です

災害時はパニック
意識して冷静になれば
良い知恵も出ます

心構え

場所を覚えておきましょう

- 屋内外消火器配置場所
- 一時避難場所(近所空き地)
- 広域避難場所(片瀬中学校)
- 避難施設(湘南白百合学園)

その時とっさの決断が必要です。

- 例えば机の下か外に飛び出すか？

“自分の問題”の意識は重要です。合わせて助けを必要とする人に手をさしのべて下さい。助けを必要とする人々もこの意識を持ち対応策を考えてください。

**近隣ネットはそのための
隣近所の助け合いの組織です!!**

災害時その時どうする？ 家中

！ 揺れたら・・・火の元を絶つ

電熱、ガスコンロ、レンジ（ガス、電気）、電灯、コンセント
（テレビなど情報ソースを除く）

！ 火が出たら・・・とっさの行動

天ぷら 油：水で濡らしたタオルで覆う
布団・毛布：火元を叩いて消火

！ 情報取得・・・正しい情報を集めましょう

ラジオ、テレビ、携帯端末、藤沢市ホームページ

！ 家屋倒壊が始まったら・・・行動を決断する

机、テーブルの下へもぐるか、外に飛び出すかを判断する
食器・置物の落下、窓ガラス飛散が起き、家屋倒壊の危険を
感じたら、迷わず直ちに道路中央や空き地に避難

！ 危険からの脱出優先・・・身を守る事が第一

怪我や命を落とす主因は火事・家屋倒壊・家具転倒にあり、
持出品より身の安全を第一にする

！ その他・・・

警察・消防は個別対応が無理、救急車も直ぐにはこない
伝言ダイヤル171を忘れず活用。簡易消火器を手元に置き、
バスタブ・バケツに水を張っておく

災害時ここにいる時は？ 外出時

！ 登下校中

塀や門柱の近くを避け持ち物で頭を守る
学校に近ければ家ではなく学校に避難

！ 海岸

津波に備えて高台方向へ

！ 車運転中

急ブレーキをかけないで、ゆっくり道路左へ
車を離れるときはエンジン停止、キーはそのまま残す

！ バス・電車

勝手に窓・扉を開けないで乗務員指示に従う

！ エレベーター

全ての昇降ボタンを一気に押し、最寄の階に降りる

！ 映画館

落ち着いて係員や放送の指示に従う

！ 百貨店・スーパー

棚・陳列ケースから離れる
エレベーター・エスカレーターには乗らない
店員の指示に従う

！ 地下街

停電しても直ぐに非常灯が点くので、慌てず出口へ。点灯が
無ければ壁伝いに出口へ

！ 繁華街

落下物、看板やガラス飛来などを避けるため堅牢な建物に入る

片瀬山のみなさまへ

片瀬山は震度の高い地区です。住民の皆様が防災への高い関心を持つことを期待して、この「防災基本心得」をお届けすることにしました。従来、藤沢市には「自主防災組織リーダーの手引き」、「地域防災計画ダイジェスト版」、「防災の手引き」、「地震から身を守る十か条」、「片瀬地区の地震マニュアル」などが発行されておりますが、この基本心得はこれら手引書とは異なる特徴を持たせて作成いたしました。防災の重要性を認識いただくようお願いいたします。

- ① 片瀬山は大きな被害が予想される地区であり、常に危機意識を持つ
- ② 先達の警句に学ぶ
- ③ 日本の震災規模・被害の実態を把握しておく
- ④ 片瀬山の震災特性を理解する
- ⑤ 平時の具体的備えと心構え、災害時の家の中と外出時の対応内容を、何れも最低限の知識として認識しておく
- ⑥ 自らを守る事を第一とし、助けを必要とする人にも手を差し延べる
- ⑦ “その時”のとっさの判断と決断は難しい。恐怖は過大でもなく過小でもなく

お願い

“自らを守る”“自ら防災する”を片瀬山の理念にしたいものです。自分を守り、自ら災害を防ぐことが出来れば、他人を助ける余裕にもつながります。下記は防災意識を高めるに為のお願いです。

- ① 表紙安否確認連絡先欄に各自必要内容を記入し、目に付く場所にぶら下げるなど、手元に置いてください
- ② この“心得”は防災の基本項目をまとめたもので、さらに詳しくは藤沢市などのマニュアルや当防災会の「防災だより」「避難設備運営マニュアル」等の刊行物を参考にしてください
- ③ 近隣ネット活動、片瀬山防災訓練、講演会、説明会に努めて参加するよう心がけてください
- ④ 地震以外に津波、一般火災、テロ、病原菌、風水害などの非日常的災害がありますが、この基本心得の精神を忘れないように考えて行動してください

知識の修得と訓練の機会を得ることは自らの災害を減じます



片瀬山住民全員参加による防災活動に励みましょう